

学校自己評価報告書

2020.3月

倉敷市立倉敷支援学校

学校教育目標 一人一人を見つめ、社会自立をめざし、たくましい生活力を育てる。						
項目 重点	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目 (具体的な計画)	達成状況	評定	改善方策
充実 自立と社会参加を目指した キャリア教育と自立活動の	○「自立活動」に視点を当てた指導・支援のあり方の研究	○事例検討会の実施 ○「自立活動」に視点を当てた授業研究	○自立活動の個別指導計画の適確な目標設定と実践（活用）	○自立活動の個別指導計画をいかした研究授業に取り組み、指導支援のあり方を探った。	B	○自立活動ハンドブックの活用と基本的事項の共通理解 ○目標の「発達」と「スキル」の明確化
地域や関係諸機関と連携した 教育活動の充実	○「児童生徒と地域との交流」と「適時適確な関係機関との連携」	○地域の学校やボランティアとの交流、居住地校交流の推進 ○保護者・相談者の気持ちに寄り添い、信頼される教職員	○地域へ貢献する活動（花のプランター配付等）に取り組む。 ○ケース会議の実施 ○医療・福祉機関との継続的な連携	○小中高それぞれ学校間交流を継続。居住地校交流は3割強。目標は5割。 ボランティア60名。 延べ155人が活動に参加。 ○関係機関と連携し、よりよい対応を検討。踏み込み切れない事例もあり、継続中のものである。	B	○居住地校交流への要望や実際に行った感想などの紹介と保護者への啓発 ○関係機関との連携による、児童生徒の将来を見据えた、家庭支援
特別支援教育に関する 指導力・専門性の向上	○人間性・専門性を高め、自信をもって特別支援学校職員の役割を果たす教職員	○「個別の教育支援計画」により、保護者と共通理解を図り、よりよい指導・支援をめざす。	○本校主催公開講座・OJTや校内研修会への積極的参加による専門性の向上 ○若手教員の育成	○中堅教員と若手教員とで、OJT研修を継続して行うことで学ぶ意識が向上した。 ○専門家派遣事業を活用し、具体的な指導やアドバイスを受ける機会を設けた。	B	○
児童生徒・保護者・教職員 にとって安全安心な学校	○人権尊重の教育の徹底 ○同僚性を培う。働き方改革の推進。	○健康な体と思いきりのある心を育てる。 ○業務内容の見直しと心身の健康を確保	○自他を大切にすする、人間関係形成能力の育成 ○最終退校時刻の30分短縮 ○定時退庁日の設定（月2日間）	○人権標語作成・Good Behaviorカードの活用 ○児童生徒への対応や保護者との共通理解。 ○最終退庁はほぼ19時半。会議時間1時間以内。	B	○児童生徒の人権に配慮した指導支援と保護者との共通理解に努める。 ○教職員間の報・連・相の徹底を図り、複数で対応する。

4段階評定（A：目標を十分に達成 B：ほぼ目標を達成 C：やや不十分 D：改善を要する）

来年度の重点取組（学校自己評価を踏まえた今後の方向性）

○今年度の「自立活動」の研究（二年次）をふまえ、さらに自立活動の個別指導計画を活用した授業を実践する。事例検討に継続して取り組み、よりたくましく主体的な生活力を育てる。
 ○人間性・専門性を高め、教育相談や困難事例の対応などでは、児童生徒・保護者の気持ちに寄り添いながら、チームとして対応し、特別支援学校職員としての役割を果たしていく。
 ○学校での教育活動をさらに積極的に保護者や地域・関係機関に発信し、双方向の情報交換に努める。